



Fresh Smile フレッシュ・スマイル

期待の新星! 徳中で働くフレッシュなルーキーが、未来のビジョンについて語る!

臨床検査技師(入職1年目)

わたなべ あきら
渡邊 瑛



大学では生命情報工学、大学院ではマイクロ波を用いた微生物培養の研究を行っていました。今までの知識を活かせることと検査技師である両親の影響もあり、この道を選びました。チーム医療の一員として、他職種と連携を取りながら、患者さんの役に立ちたいと思っています。好きなお酒によって交友関係が広がりました。自分の知らない知識や考え、視野を広げられるので、とても勉強になります。

臨床検査技師(入職1年目)

はやし かなこ
林 可那子



両親が健康診断を受けた際に臨床検査技師という職業を知り、興味を持ったことから、この仕事に就きました。患者さんの心に寄り添うことができるように、いろいろなことに挑戦して経験を積んでいきたいと思っています。趣味はおいしい食べ物を探すことです。平日に気になるお店や商品をリサーチしておいて、週末に食べに出掛けています。初めての味に出合うのが楽しくて、毎週のように巡っています(笑)。



JCHO徳山中央病院広報誌「Smile」 春号vol.008 2019年3月15日発行
発行/JCHO徳山中央病院 direction&design/しろくまグラフィックス writing/小野理枝 photo/Photo Office MOTHER LEAF
お問い合わせは...JCHO徳山中央病院 総務企画課 TEL: 0834-28-4411 E-mail: main@tokuyama.jcho.go.jp

Smile

Tokuyama Central Hospital

【スマイル】

春号

vol.008
Spring.2019

地域のみなさまと『JCHO徳山中央病院』をつなぐ
コミュニケーションマガジン



栄養管理室が発信! 健康レシピ

旬食材で

管理栄養士
たやもと ともこ
多谷本 朋子



イワシは、生活習慣病の予防に役立つ脂肪酸EPAやDHA、カルシウムやカルシウムの吸収を助けるビタミンDなどを豊富に含む栄養満点な食材です。揚げることで独特の臭みが和らぐので、おいしく食べられますよ!

イワシのアングリーズ

《材料(4人分)》イワシ...4尾、A(しょうが汁...少々、酒...大さじ1)、片栗粉...大さじ2、B(ウスターソース...大さじ2、砂糖...大さじ1)、パン粉...大さじ2、揚げ油...適量、サラダ菜...適量、ミニトマト...適量



《作り方》①イワシの頭を取り、手で身を開いて中骨を取る。Aで下味をつけ、片栗粉をまぶす。②パン粉はフライパンできつね色になるまで炒って取り出しておく。③Bを混ぜて、フライパンで煮詰めておく。④170℃の油で①を揚げ、③をからめ、②をまぶす。⑤サラダ菜とミニトマトを彩りよく盛り付ける。
※④の調理法を「揚げる」から「焼く」に変えれば、カロリーを大幅にカットできます!

ご意見・ご感想を募集しています

誌面に対するご意見やご感想、とりあげほしいテーマがありましたら、①氏名②住所③年齢④性別⑤ご意見などをご記入のうえ、下記宛先までお便りかメールでお送りください。

○個人情報の取り扱いについて
個人情報は、今後の誌面づくりの参考のために使用し、使用後は編集部が責任をもって破棄いたします。

編集後記

今シーズンはインフルエンザ予防のためにマスクを装着されている方が多かったように思います。そこで気になったことが一つ! 多くの方がマスクを正しく装着されていないことです。今号では効果的なマスクの装着方法をご紹介します。周りの人にうつさないためにも実践してみてくださいね!(編集担当 勝津)

<診療科情報>

動き始めた がんゲノム医療

副院長(産婦人科) 沼 文隆

<Hello! 部署訪問>

東館7階病棟

<認定看護師>

新生児集中ケア認定看護師 石田 裕子

<地域連携クリニックのご紹介>

岩本医院 岩本 直樹 院長

〒745-8522
周南市孝田町1-1
JCHO徳山中央病院 総務企画課 宛

QRコード

メールご利用の方は、
コチラから→





JCHO徳山中央病院
副院長(産婦人科)

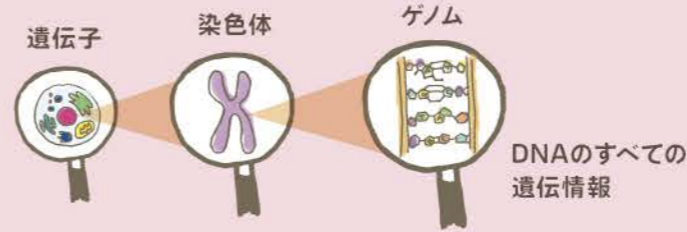
ぬま ふみ たか
沼 文 隆

近年、ゲノム医療が世界中で急速に進んでいます。日本でもゲノム医療実現推進協議会が設けられ、がんゲノム医療中核拠点病院として11施設が指定されました。当院も、平成30年10月に、がんゲノム医療中核拠点病院である岡山大学病院と連携し、がんゲノム医療連携病院の指定を受けました。山口県内では、山口大学医学部附属病院と岩国医療センターと当院の3カ所が認定を受けています。がんゲノム医療と産婦人科は切っても切れない関係にあります。当院では、一昨年より遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)*など、女性特有のがん治療にがんゲノム医療を導入しており、症例が蓄積されつつあります。今後、最新の解析技術によるがん遺伝子パネル検査を用いたゲノム医療が推進され、新しい薬を用いた個別化医療が普及していくことで、がん治療が大きく変わっていく可能性があります。

*HBOCは遺伝子の病的な変異(BRCA1とBRCA2)が原因のひとつとされており、これらの遺伝子変異を有する女性における乳がんと卵巣がんの発症リスクは高率である。

ゲノムってなあに？

ゲノムとは、生物の遺伝に関わるDNA分子全体に対する総称で、よく設計図に例えられます。



がんゲノム医療とは？

標準治療



標準治療がないがん、標準治療が終了したなどの場合

がんゲノム医療



ゲノム情報に基づく薬物療法 (臨床試験など)

がんゲノム医療とは、がん細胞のゲノム情報を検査し、個々の患者さんの検査結果をもとに効率的・効果的に診断・治療・予防を行うことです。

従来のがん治療は、胃がん、乳がん、卵巣がんといった臓器別あるいは病理組織型で分類され、蓄積された疫学的なデータをもとに標準治療が提唱され、手術や抗がん剤化学療法、放射線治療を中心として行われてきました。しかし、近年のがん研究やゲノム解析技術の進歩により、がんは見た目(形態学)だけでは解決できないこと、さまざまな遺伝子異常の蓄積で発症すること、先祖から受け継ぐ遺伝性のものであることなどが明らかにされてきました。そこで、より根源的な遺伝子異常、一人ひとりの体質や薬の効果の違いなどに対応して治療を行うがんゲノム医療が注目されています。

遺伝子疾患って??

治療法がない病気なの？

病気の原因には、大きく分けて環境要因と遺伝要因があります。遺伝子疾患は、遺伝子の異常が要因となって起きる疾患の総称です。遺伝子変異そのものは治りませんが、病気(病態)に対する治療法や対応策はあります。

めずらしい病気なの？

特別な疾患ではなく、すべての人々が罹患しうる病気です。誰でも何らかの遺伝病の保因者であり、発症しなければ、わからないだけです。よくある病気である糖尿病、高血圧症などは、遺伝子の異常(遺伝要因)と環境要因が合わさって発症すると考えられています。

遺伝子変異があれば必ず病気になる？

遺伝子変異があるからといって必ずしも病気になるとは限りません。遺伝子変異は病気の発症リスクを上げますが、実際の発症には別の因子も必要となってくるため、100%病気になるわけではありません。

遺伝子変異はすべて遺伝するの？

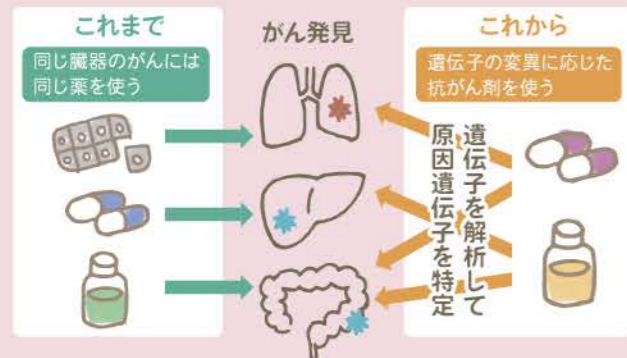
遺伝子変異のタイプによって遺伝の確率は変わります。100%遺伝するわけではありません。

動き始めたがんゲノム医療

分子標的薬の開発

近年、がんに関する研究が進み、細胞をがん化させているのは、遺伝子異常そのものではなく、遺伝子異常によって産生された異常タンパク質が細胞内で悪さをしているためであることが明らかになりました。こうした背景から誕生したのが「分子標的薬」で、現在急ピッチで開発が進められています。がん細胞の増殖や転移を行う特定の分子だけを狙い撃ちにするため、正常な細胞へのダメージが少なく、患者さんへの負担が軽減できるものと期待されています。

<がんゲノム医療のイメージ>



【がんゲノム医療に関するご質問連絡先】
JCHO徳山中央病院 がん相談支援センター

0834-34-8821 まで

個別化医療のこれから

膨大なゲノム情報の中から、疾患に関する遺伝子変異を同定するためには、複数の検査が必要です。そのため、適切な分子標的薬の使用に到達するまでには、時間や費用、検体の消費等が課題となってきます。そこで、がんに関わる多くの遺伝子異常を一度に網羅的に解析できる「遺伝子パネル検査」が期待されています。遺伝子パネル検査を用いたがんゲノム医療が推進されれば、一人ひとりの遺伝子変異に応じた個別化医療が急速に普及していくことになるでしょう。あまりに過剰な期待は禁物ですが、ノーベル医学生理学賞を受賞された本庶佑先生が受賞講演の中で述べられたように「今世紀中ががんはコントロール可能な慢性疾患の一つになる(と信じている)」のも夢ではないのではと思います。

徳中の産婦人科について

現在、副院長の私を含め7名の常勤医が日々の診療に励んでいます。産科(正常妊娠・異常妊娠)、生殖医療(不妊症治療)、婦人科腫瘍といった各分野において専門性をいかしたハイレベルの診療を心がけています。悪性腫瘍手術件数は県内トップレベルで、子宮悪性腫瘍適応症例には腹腔鏡下手術も積極的に行っています。産科領域では、周産期母子医療センターとして、山口県東部全域からのハイリスク妊娠、緊急母体搬送も受け入れています。小児科・NICUと定期的かつ綿密なカンファレンスを行い、母子にとってより良い安心した医療を提供できるように切磋琢磨しています。

<平成29年度実績>

- 年間手術数 **662件**
(うち腹腔鏡下手術204件)
- 分娩数 **489件**
- 体外受精および顕微授精 **95周期**

遺伝カウンセリングをはじめ、再発乳がんに対する治療薬(オリパラブ)のコンパニオン診断としてのBRCA遺伝子検査、リンチ症候群などの遺伝性腫瘍に対する遺伝子検査も行っています。



“どんなお仕事をしていますか？”

Hallow! 部署訪問!

東館7階病棟

部署
データ

- ✓ 循環器内科医 8名
- ✓ 心臓血管外科医 2名
- ✓ 看護師 26名
- ✓ 看護補助者 7名
- ✓ 事務補助者 1名

患者さんの気持ちに寄り添う

心臓疾患は日々病状が刻々と変化することもあり、患者さんはもちろんご家族も多くの戸惑いや不安を抱えておられます。一番近くに寄り添う私たち看護師の役割は、そうした不安を取り除き、患者さんやご家族が安心して治療・療養に専念できるようにすることです。そのためには、看護師のみならず、医師や薬剤師、理学療法士、栄養士、医療ソーシャルワーカーなど、多職種のスタッフの協力が欠かせません。相談しやすい人間関係や信頼関係の構築に努めながら、患者さんやご家族の思いに添えるように尽力しています。また、退院後の生活にも視点をおき、入院中の早い段階から退院の目標や希望を確認して、患者さんやご家族の思いに添えるような支援を行っています。



看護補助者も力を合わせて頑張っています!

看護補助者

- ひろなか ゆみこ (右) 弘中 由美子
- いのうえ まなみ (左) 井上 愛美



総合力で最善の治療・看護を提供

東館7階病棟は、循環器内科・心臓血管外科の患者さんが入院される病棟です。従来の内科・外科の枠を超えた総合的な視点から、迅速かつ適切な治療を提供しています。対象となる主な疾患は、心筋梗塞や狭心症、心不全、不整脈、弁膜症といった心臓疾患で、急性期から回復期、慢性期、終末期まで、幅広い治療・看護を行っています。病床数35床、観察室4床を備えており、急激な変化を起こしやすい心臓疾患に対してすぐに集中治療に移れる体制を整えています。



部署には“おむつマイスター”資格保持者が2名います。正しいおむつの使い方は患者さんへの負担をなくし、ケアの質を向上させる大切な知識と技術です。

看護師長 やなぎざわ ともこ
柳澤 知子



継続的な支援をめざして

心臓疾患を抱える患者さんは、退院後も継続的な治療や生活習慣の改善が必要になります。患者さん自身をとりまく生活環境はさまざま、退院後の生活に不安を抱えておられる方も少なくありません。そうした患者さんやご家族の不安が少しでも軽減され、安心して生活できるように、チームワークで支える病棟をめざしていきます。



Certified Nurse

認定看護師

にん だ い かん こ



新生児集中ケア認定看護師

いしだ ゆうこ
石田 裕子



家族のはじまりの一步を支援したい。

徳山中央病院では、現在12名の認定看護師が活動しています。今回は、新生児集中ケアを専門とする認定看護師をご紹介します。

>>>> 認定看護師って?

特定の専門分野における看護のスペシャリストです。看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める615時間以上の認定看護師教育を修め、認定看護師認定審査に合格した者のこと。合格後は、5年ごとに更新審査が行われます。

赤ちゃんご家族の可能性は無限大です。その可能性に惹かれ、もっと赤ちゃんに最善な看護がしたい、ご家族の気持ちに寄り添える看護をしたいと考えて認定看護師をめざしました。

新生児集中治療室(以下NICU)には、早産児や低出生体重児、心疾患や染色体異常など、さまざまな病気を抱える赤ちゃんが入院してきます。そうした病気の重症化を予防し、障害のない成長につなげることで、赤ちゃんが家族の一員としてご家族のもとへ帰れるようにすることが、新生児看護最大の役割です。

当院NICUは12床認可の9床稼働で運営されており、高度な医療機器を完備し、専門の医師と看護師が24時間体制で対応にあたっています。当院で生まれた赤ちゃんだけでなく、他院で産まれて治療

が必要な赤ちゃんも入院しており、平成29年度の入院数は173名とたくさんの赤ちゃんとの出会いがありました。

SNSが普及している現代、ご家族には良くも悪くも新生児医療に関するたくさんの情報が入ってきます。その情報を我が子に重ねて、さらに大きな不安を持たれることも少なくありません。そうした不安が大きくなるようにご家族に寄り添い、正確な情報と赤ちゃんの様子を伝え、赤ちゃんが家族の一員であると実感していただけるように意識しながらご家族と関わらせていただいています。

また、赤ちゃんは大人と違い、自らの言葉で伝えることができません。その代わりにさまざまなサインを通してメッセージを伝えてくれます。赤ちゃんが発するサインをいち早く読み取り、その子に合わせ

た最善の看護を提供できるように日々心掛けています。

赤ちゃんの入院は、ご家族と同様に胸が締めつけられる思いです。ですが、赤ちゃんの生命力や回復力を目の当たりにして、こちらが元気をいただくことの方が多い気がします。入院してきた赤ちゃんが退院の日を迎える時の喜びは、言葉では言い表せません。

可愛い赤ちゃんと、笑顔で赤ちゃんに接しているご家族を見ると、自然とこちらも笑顔になります。命の成長と家族の絆が感じられる場に立ち会えることに感謝し、赤ちゃんとご家族にとってNICUが居心地の良い空間となるように、これからもスタッフと一緒に最善を尽くしていきたいと思えます。



(左)赤ちゃんとご家族の気持ちを考え、スタッフとよく話します(中)スタッフには、赤ちゃんからの大事なサインを見逃さないよう指導しています(右)理学・作業療法士に赤ちゃんの姿勢について相談することもあります

石田看護師プロフィール

子供の頃から大のカープファン! 娘たちも産まれる前から(?)のカープ女子で、応援歌も完全に歌えます。次のシーズンも優勝目指してがんばってほしいです!



地域連携
クリニックの
ご紹介

徳山中央病院と連携されている
地域の「かかりつけ医」をご紹介します！

REPORT



今回ご紹介するのは…

岩本医院

いわもと なおき
院長 岩本直樹 先生



患者さんを支える優しい
スタッフの皆さん。何でも
気軽に相談できる身近な
存在として、日頃から地
域の方々のコミュニケー
ションを大切にされて
います

明るく、アットホームな雰囲気の待
合室。一角には畳のスペースもあり、
ゆったりと横になることもできます



院内には、患者さん
からいただいた手作
りの作品がズラリ



岩本先生のお子さんが作成した可愛
いロゴマーク。モチーフは夏みかん

岩本医院

診療科目／内科・外科・脳神経外科
周南市須々万本郷356-3
tel.0834-87-2525
休診日／木・土曜午後、日曜、祝日、盆、年末年始
主な診療内容／内科一般、外科一般、脳神経外科、
脳ドック、健康診断、予防接種、在宅治療 等

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○
14:30~18:00	○	○	○	—	○	—



も患者さんの賑やかな声が響いてなごや
かな雰囲気。病気のある・なしにかかわら
ず、地域の人々の憩いの場としても活用さ
れているようです。

「高齢化が進む中山間地域においては、
人と人のかかわり自体が希薄になり、
近隣の人の健康状態にも気づきにくく
なっています。こうした状況を防ぐため、
コミュニティの拠り所として、地域に根ざ
したクリニックをめざしています」

岩本先生が最も大切にされているのは、
心の通った「手当て」をすること。お話を
聞きながら、患者さんやそのご家族との
触れ合いを何よりも大切にされている様
子がひしひしと伝わってきました。

院長 PROFILE

鳥取大学医学部卒業。徳山中央病
院脳神経外科部長を経て、平成27
年10月、岩本医院を開院。趣味はラ
ンニング。年に一度、下関海響マラ
ソンに参加するのが続けるモチ
ベーションに。最近ハ
マっているのは、ルー
ビックキューブ。



医師不足が叫ばれていた須々万地区に、
3年前開院した岩本医院をご紹介します。
院長の岩本直樹先生は、長年にわたり脳
神経外科の診療や緩和ケアに取り組んで
こられました。地域の方々のニーズに応え
るため、これまでの専門性を生かしつつ、
風邪や湿疹をはじめ、外傷やさまざまな
疾患に対応されています。MRIやCTを使
って脳の病気の早期発見、早期診断を
行うほか、腰痛や膝痛、肩や首のこり
といった整形外科の疾患については、検査
や機器を用いた電気治療なども行って
います。

住み慣れた地域でいつまでも自分らしく
暮らしたい。そんな患者さんのニーズに
応えるために、地域の訪問看護師やケア
マネージャー、ヘルパー、地域包括支援セ
ンターの方等と情報を共有しながら、在
宅医療や看取りにも取り組まれています。

また、徳山医師会病院との連携により、
岩本先生が主治医のまま入院できるオー
プンシステムを利用。手術などの専門的
な治療が必要な場合は、徳山中央病院な
どと連携して治療を行っています。

温かみのある開放的な待合室は、いつ

ギモンに
お答え！ よろず相談室

問. 「訪問診療」や「往診」ってどういうものの？

答. 診療の必要があるものの通院することが難しい患者さん
が利用できる制度です。どちらも医師が患者さんの自宅
に診療に向うことを指しますが、「訪問診療」は定期的に医師が自
宅に診療に向うこと、「往診」は患者さんの容態が悪いときに医師
が臨時的に向うこと、と定義が違います。これらを24時間365日
体制で実施する診療所を「在宅療養支援診療所」といい、周南地
域にも存在します。詳しくはご相談ください。

地域連携・相談室は、
地域みなさまと当院をつなぐ地域医療の窓口です。

退院・転院支援や、活
用できる社会制度の情
報提供、患者さんやご家
族のご心配事など、誰に
相談していいかわからな
くて困っていませんか？
どんなことでもかまいま
せん。まずはお気軽にご
相談ください。



地域連携・相談室は、西館1階にあります。

マスクの正しいつけ方・はずし方

風邪や花粉症で、咳やくしゃみが出る場合にマスクをすることは基本的なエチケットです。しかし、
マスクはただつけるのでは十分な効果は発揮しません。正しく着用して、効果的に予防しましょう。

つけ方



- ①箱(袋)からマスクを一枚取り出す。
- ②2本のゴムひもを左右の耳にかけ鼻・口を覆う。
- ③鼻の部分の針金を鼻の形にしっかり合わせる。
- ④口・鼻をしっかりと覆うようにブリーツをあごまで伸ばす。

はずし方



- ①マスクを外す時には、表面を素手で触れないように、ゴムひもを外す。
- ②使用後は表面に触れない様にゴムひもを持ってゴミ袋に破棄する。

マスクのつけ方、間違ってますか？



マスクをつける前とはずした後は必ず手を洗いましょう！

手を清潔に保ちましょう。マスクを扱う手が汚染されたら、元も子もありませんね。



JCHO徳山中央病院 院内感染防止対策委員会